

【学校名】 網走市立中央小学校
【活動の名称】 ありがとうカード
【活用した資源】 児童会活動
【対象学年と活動の時期】 全学年 5月～3月

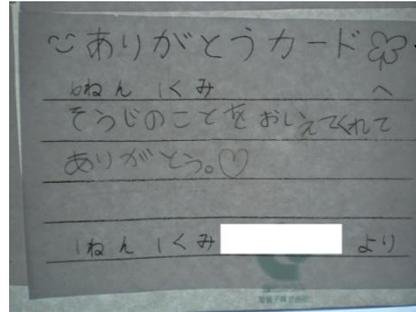
(項目イー観点③環境づくり)

【活動の概要】
・全校児童が、ありがとうのメッセージをカードに記載し、そのカードを校内に掲示したり、相手に届けたりする。

【ねらい】
・子どもたち同士で感謝の気持ちを伝えたり、伝えられたりする活動を日常から行うことで、相互に認め合う雰囲気醸成させ、自己有用感を高める。

【活動の流れ】
①児童会が中心となり、「ありがとうカード」の活動計画を立て、カードや回収用ボックス等の準備をする。

児童会が作成した
ありがとうボックス



一年生の児童が書いた
ありがとうカード

②代表委員会を通じて、活動のねらいや活動内容について全校児童に周知する。

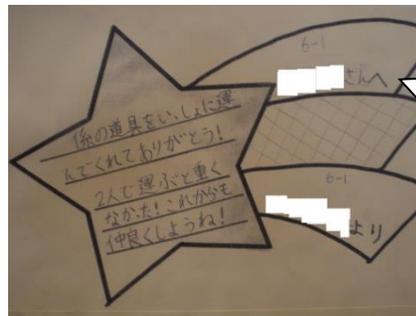
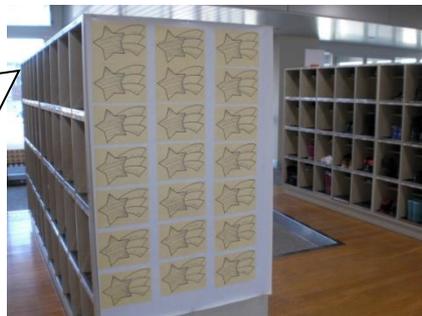
③学校行事後（運動会や縦割り集会、学芸会など）には全校児童がありがとうカードにメッセージを記入し、カードは校内に掲示する。

運動会後に全校児童
が書いたありがとう
カード



④日常の取組として、いつでもカードに記入することができるよう、ありがとうカードとありがとうボックスを校内に設置している。児童会が月に一度、カードを回収して、整理し、校内に掲示する。

全校児童が見られる
よう、児童玄関に掲示



友だちへありがとう
のメッセージ

【本活動における成果等（留意点を含む）】
・他者のよい所を見付けようとする児童が増えてきた。
・他者から認められているという安心感をもって学校生活を送る児童が増えてきた。
・他者とのつながりについて再確認することで、自他を認め合う言動が増えてきた。

【学校名】 幕別町立古舞小学校
【活動の名称】 食と農（総合的な学習の時間・生活科）
【活用した資源】 P T A役員、食品加工施設職員、地域住民
【対象学年と活動の時期】 全学年 5月～2月

（項目ア—観点①居場所づくり）

【活動の概要】

- ・縦割り班により大豆を育てて収穫し、豆腐に加工する。
- ・活動のまとめを地域参観日において地域住民に対して発表する。

【ねらい】

- ・食物を育て、食する活動を通して、生命の尊さを理解するとともに自他の生命を尊重する態度を育てる。
- ・縦割り班で協働して作物を育てる活動や地域参観日で発表する活動を通して、異学年や地域住民との相互理解を深める。

【活動の流れ】

- ①全児童で育ててみたい作物を考え、課題を設定する。
- ②P T A役員に畑の整備を依頼する。

【P T A役員との連絡調整】

- ・学校畑で栽培する作物が決まり次第、P T A役員に連絡をし、学校畑の整備を依頼する。
- ・P T A役員に整備の日時及び児童が手伝える作業の有無について確認する。
- ・P T A役員に栽培する作物の世話をする上での留意事項について説明を受ける。

豆腐を作りたいから、大豆を育てます。



- ③栽培学習を実施する。
 - ・5月 縦割り班に分かれて播種を行う。
 - ・5月～9月 縦割り班に分かれて水やりや草取り、追肥等の作業を行うとともに、作物の育ちを観察する。
 - ・10月 収穫する。
- ④加工学習を実施する。
 - ・11月 地域の方の協力を得て「ずんだ餅」及び「豆腐」を作る。



〔ずんだ餅作り〕



〔豆腐作り〕

「幕別ふるさと味覚工房」の職員さんが、豆腐の作り方を丁寧に教えてくれました

- ⑤「食と農」のまとめを行う。
 - ・12月～1月 地域参観日での「食と農発表会」に向けて情報の整理やまとめを行う。

【「食と農」のまとめに向けて】

- ・大豆の栽培過程、加工学習の様子、大豆にかかわる知識（歴史や品種、収穫量、加工品など）について、観察記録やインターネット、書籍などを基に情報収集し、情報を整理する。
- ・プレゼンテーションソフトを活用し、発表資料を作成する。

・2月 地域参観日で「食と農発表会」を行う。

【本活動における成果等（留意点含む）】

- ・縦割り班による栽培学習や加工学習を通して、上学年は下学年への思いやりの心が、下学年は上学年を敬う気持ちが育ち、異学年の相互理解が深まった。
- ・地域の方々にお手伝いや指導、授業参観をしてもらった機会を通して、地域の一員としての自覚が芽生えたとともに、自分たちは地域の住民みんなに見守られているという思いが深まった。

【学校名】 標茶町立標茶小学校
【活動の名称】 ありがとうボックス
【活用した資源】 同町内小中学校
【対象学年と活動の時期】 全学年 4月～3月

(項目エー観点③環境づくり)

【活動の概要】

- ・児童会「ありがとうを広め隊」が中心となって企画し、全校児童を対象に「ありがとうのメッセージ」を募集し、寄せられたメッセージの紹介や廊下掲示などを行う。

【ねらい】

- ・「ありがとう」を互いに伝え合い、学年・学級を超えた人間関係を育み、児童の自己有用感を高める。
- ・児童同士が思いやりのある言動を積極的に見付け、認め合う活動を通して、思いやりのある行動や温かい言葉掛けを全校に広げる。

【活動の流れ】

- ① 児童会が中心となって「ありがとうボックス」の活動を推進することをPTA総会や学校だよりなどを通して、保護者に周知する。
- ② 取組の内容を児童総会で決定し、朝会などを通して全校児童に周知する。
- ③ ありがとうボックス(回収箱)を各学級に設置する。
- ④ 運動会、学芸会などの行事を含めて、日常的に「ありがとうボックス」への投稿を児童会主体で働きかける。
- ⑤ 投函されたメッセージを定期的に掲示する。

＜寄せられたメッセージ＞

- 2年生のみんなに
学芸会の日に、力を合わせて学芸会を成功させてくれてありがとう。(2年)
- 6年生のおにいさん、おねえさんへ
楽器を出してくれてありがとう。(1年)
- 5年生のみなさんへ
練習で戻りが遅くなった時、給食の準備をしてくれてありがとう。とても助かりました。(6年生)
- 5・6年生のみなさんへ
本番の時に、どこへ移動すればよいか分からず困っている時に、「こっちだよ」と声をかけてくれてありがとうございました。(4年)
- 6年生のおにいさんへ
いつも一緒に遊んでくれて、ありがとう。(1年生)
- 6年生のおにいさん、おねえさんへ
いつも給食のエプロンを洗ってくれて、ありがとうございます。(1年生)
- 3年生のみなさんへ
ぼくの「ありがとうカード」を書いてくれてありがとう。(3年生)
- 5年生のみなさんへ
すてきなメッセージカードを書いてくれてありがとうございます。だからやる気が出ました。5年生も音楽を頑張ってください。(2年生)
- 3～6年生のみなさんへ
いろんな場所を掃除してくれてありがとう。(2年生)
- 4年雪組のみんなへ
ぼくたちが落ちついた生活をしてなくてラーメンのつゆをこぼしたとき、片付けをみんなで手伝ってくれてありがとう。(月組より)



＜学芸会の「ありがとう」＞



＜日常の「ありがとう」＞

- ⑥ 「ありがとうボックス」の取組を「標茶町いじめ根絶子ども会議」で発表する。
※他校の取組を参考にして、内容の充実を図る。
- ⑦ 半期、年間の「ありがとうボックス」の活動を振り返り、次年度に引き継ぐ。

【本活動における成果等(留意点含む)】

- ・「ありがとう」を積極的に伝え合う温かい環境や人間関係ができ、自尊感情の高まりが見られた。
- ・学年を超えたつながりができたことにより、高学年には、低学年に対して優しく接しようという意識や高学年としての自覚や責任感が育まれ、低学年には、お世話をしてくれた高学年への尊敬や感謝の気持ちが育まれた。
- ・「感謝」に係る取組を組織的に継続したことにより、他の人々の助けや支え合いに対して感謝しようとする意識を高めることができた。
- ・先生や友だち、上級生などの身近な人だけでなく、担任以外の先生や校長先生など、多様な人とコミュニケーションを図ろうとする姿が見られるようになった。

【学校名】 標茶町立標茶小学校
【活動の名称】 「縦割り地区遊び」の充実
【活用した資源】 町内小中学校
【対象学年と活動の時期】 全学年 5月～3月

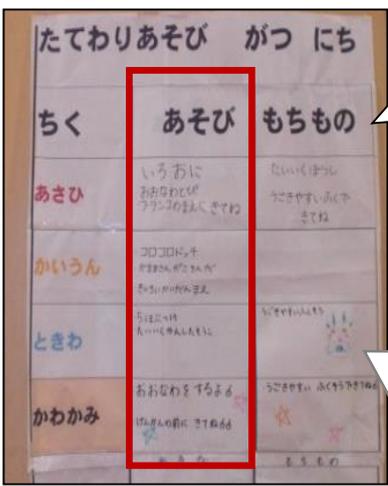
(項目アー観点②絆づくり)

【活動の概要】
 ・児童会「仲間をふやし隊」が中心となり、月に1回、異年齢集団でのつながりを深める「縦割り地区遊び」活動を行う。児童が住んでいる地区ごとに分かれ、地区リーダーが中心となって遊びを企画する。

【ねらい】
 ・地区別の縦割り遊びを通して、学年を超えた人間関係づくりをする。(全)
 ・上級生として自分に与えられた役割を果たすことにより自己有用感を高めることができるようにする。(高)
 ・低学年や中学年への思いやりの心もち、協力して活動に取り組もうとする態度を育てる。(高)
 ・高学年に信頼と尊敬の気持ちもち、積極的に参加する態度を育てる。(低・中)

【活動の流れ】
 ①地区リーダーが中心になって「縦割り地区遊び」の取組内容を考え、準備を始める。
 ②各月、全校朝会や放送で「縦割り遊び」実施のお知らせをする。

仲間を誉めたい	たてわりあそび	全体あそび
(仲よく交流したい)	全校給食	ボウリング活動
ちよと運動したい	体カアップ	体育館の整理
(元気に運動したい)	外あそび週間	あそびのルール決め
ありがとうをあげたい	ありがとうBOX	朝会準備 司会
(ありがとうを誉めたい)	ありがとうをあげるイベント	
楽しい放送をしたい	給食時間の放送	
(みんなに知らせたい)	朝と夕りの放送	
本の楽しさを知らせたい	図書の前出し	図書室の整理
(おもしろさを知らせたい)	お話し会の司会	
健康な体をつくりたい	かぜの予防	トイレの使い方のよびかけ
(健康な体をつくりたい)	けがの予防	
キレイな学校にしたい	学校の中をきれいにする	
(ゴミにしたい)	植物のお世話	
学校のまわりを守りたい	あいさつ運動	
(あいつからはじめたい)	学習や生活のまじりのよびかけ	



毎月、縦割り遊びのお知らせを児童玄関の前に掲示。新しい遊びの予定が掲示されると、低学年の児童を中心に、「次はどこで何をして遊ぶのだろう?」と嬉しそうにお知らせを見ています。

〈各地区の遊びの内容〉
 「あさひ地区」
 ・いろいろに
 ・おおなわとび
 「かいうん地区」
 ・コロコロドッチ
 ・だるまさんがころんだ
 「ときわ地区」
 ・5ほぶつけ
 「かわかみ地区」
 ・おおなわとび

〈児童会の主体的な取組〉 〈お知らせの模造紙 児童玄関前〉
 ③「縦割り遊び」を月1回実施する。
 ・1回目は、各地区顔合わせをする。
 ・2回目以降は、全員で楽しめる遊びを意識して高学年が中心となって遊びを進める。
 ④ 前期・後期の活動を振り返り、次年度に引き継ぐ。
 ※他校の取組を参考にして、内容の充実を図る。

取組内容の改善・充実を図り、安心感の醸成・自尊感情を高める

【前期】 児童の人間関係をつくる

【後期】 児童の人間関係を深める



〈みんなの名前を覚えよう〉
 ・おにごっこ・はないちもんめ・だるまさんが転んだなど、名前を呼び合い、関わり合う遊びの工夫

〈みんな楽しく遊ぼう〉
 ・ドッジボール・トランプ・そり遊び・大根ぬき・カルタなど、みんな楽しく遊び、関係を深める遊びの工夫

【本活動における成果等(留意点含む)】
 ・学年を超えたつながりができた。
 ・地区リーダーを中心にリーダーシップを発揮し、主体的に企画・運営に取り組む姿が見られた。
 ・高学年では、「みんなで楽しめる活動」を意識して取り組む姿が見られた。
 ・低学年では、「お兄さんお姉さんに遊んでもらって楽しかった」という感想が寄せられた。
 ・高学年と低学年の関係が育まれたことにより、日頃からコミュニケーションを図る場面が見られ、高学年には自己有用感が、低学年には安心感が育まれた。

【学校名】根室市立花咲小学校
【活動の名称】 「構成的グループエンカウンター：戦いを終えて」
【活用した資源】運動会
【対象学年と活動の時期】高学年（第5・6学年）、運動会后

(項目ア—観点②絆づくり)

【活動の概要】
・運動会の振り返りの際に、運動会を通して輝いていた人は誰か、とてもよかったエピソードは何かなどを話し合ったり、発表し合ったりする。

【ねらい】
・運動会に関わる「目標設定⇒練習⇒本番⇒振り返り」の取組を通して、クラスメイトの仲間意識や学級への所属感を高める。また、お互いの健闘を称えることで、児童の自己肯定感を高める。

【活動の流れ】
①運動会で思い出に残っている出来事や、クラスメイトのがんばりなどについて自由に発言する。



「去年は優勝できなかったけど、今年は優勝できてよかった」
「リレーは最後までどっちが勝つか分からなくて盛り上がった」
「集団行動は初めてだったけど、うまく交差できた」
「6年生の応援団がとってもかっこよかった」
「係の仕事は初めてだったけど、頑張れた」

②ワークシートに、「輝いていた人」「よいエピソード」「がんばったこと」等を書く。
※この時に、全員が「輝いていた人」に選ばれるように配慮する。

「集団行動の練習中は、何度も失敗したけど、本番でうまく歩ききることができたとき、『とってもかっこよかったぞ』と先生に言ってもらえて、やってよかったなと思いました」



「A君は徒競走で最下位だったけど、最後まで全力だった」「Bさんは、赤組が勝てるように、応援の内容を一生懸命考えてくれた」
「C君は怪我で競技に出られなかったけど、集団行動の指揮を大きな声で頑張っていた」

③ワークシートをもとに、班になって話し合う。
④班で話し合った内容を発表する。
⑤学級担任から、運動会に関わる労いの言葉や、クラスとして成長した点などを伝える。

※これ以外に予定している構成的グループエンカウンターの取組

1. 「何がいじめなの？」【他者理解】

- ①いくつかの行為が書かれたプリントを配布し、その行為についていじめの度合いを点数で付ける。
- ②それをもとにグループで話し合う。最初は相手を説得するように、後半はコンセンサスを得る方向で話し合う。その後、各グループの結果を発表する。
- ③グループ同士（またはクラス全体）で質問や意見の交換を行う。
- ④最後にもう一度個人で点数を付け、話し合いの前後での変化や感想について話し合う。
- ⑤全体でシェアリングを行う。

2. 「バイバイ！ストレス！」【自己理解・信頼体験】

- ①どんなときにストレスを感じ、体や気持ちがどうなるか、自分なりの解決方法についてワークシートに書く。その後グループで発表し合う。
- ②ストレスチェック表に今の状態をチェックする。
- ③二人ペアになり、一人が椅子に座り、もう一人が後ろに立つ。後ろの人が座っている人の方に手を置き、「両肩に力を入れましょう。一気に肩の力を抜きましょう」とやさしく声をかける。
- ④交代して二回ずつ行い、その後、今の気持ちを話し合う。
- ⑤全体でシェアリングを行う。

【本活動における成果等（留意点含む）】

- ・運動会を通して学級の団結力が上がり、肯定的な声かけが多くなった。
- ・その後の行事に対して、児童の意欲が高まり主体的に行動するようになった。
- ・構成的グループエンカウンターを行う際は、授業者は受容的な態度で臨み、教室全体に受容的な雰囲気を作り出すように配慮することができるようになった。

【学校名】根室市立花咲小学校				
【活動の名称】 「いじめについて考える集会」				
【活用した資源】児童会活動				
【対象学年と活動の時期】4年生以上 9月				

(項目イー観点②絆づくり)

【活動の概要】
・「いじめをどうしたらなくすことができるか」をテーマに、パネルディスカッションを行う。

【ねらい】
・いじめをなくすための方策を考えることを通して、いじめは絶対に許されないことだという意識を高める。
・児童会が主催し、高学年で話し合うことで、いじめの未然防止に向けた全校で取り組める方法を考えることができる。

【活動の流れ】
①事前指導
・各学級で「どうしたらいじめをなくすことができるのか」をテーマに話し合い、クラスの意見をまとめる。
⇒NHK教育「いじめをノックアウト」の「100万人の行動宣言」を活用する。
・パネルディスカッションについて学習する。(第6学年国語科)
・児童会役員は、司会や集会の運営の仕方について確認する。
②いじめについて考える集会
・司会者からパネリストの紹介と、話合いの概要について説明する。
・パネリストが学級の意見を発表し、パネリスト同士の意見交換を行う。
・パネリストとフロアの意見交換を行う。
・司会者が話合いをまとめ、花咲小学校としての意見をまとめる。

〈パネリストからの意見〉
・みんなで遊ぶ機会を増やす ・ポスターなどを使って呼びかける
・傍観者を味方につける ・いじめBOXを作って、早期発見 など
〈全体のまとめ〉
・遊ぶ機会を増やすことで、お互いをより知ることができ、いじめが生まれにくい環境が作られる。
・集会委員会などの企画に進んで参加して、全校でそのような環境をつくってほしい。



【討論の様子】



【まとめの発表】



【パネリストの発表】

③事後指導
・各学級で振り返りを行う。
・児童会は話合いの結果、まとめた意見を校内に掲示する。

【本活動における成果等（留意点含む）】
・高学年がいじめをなくすためにどうしたらよいかを真剣に考えることで、子どもたちの中に「いじめは絶対許されない」という意識が高まった。
・いじめの未然防止に向けて、集会委員会等の児童会の取組に主体的に参加する児童が増えた。
・話合いのテーマは、その学校やその年の実態に応じて変えて行う。
例えば、「みんなが仲良く遊ぶためにはどうするか」「全校で挨拶を活発にするにはどうするか」等